

(五) 石原純

立物と、運動してゐると云ふ

フランス文學の

增田篤志

[illegible]

空間

つたのです。さころが相対

フランス文學の

(二) 増田篤

[illegible]

一

その論は、先づ
月か二更するところから

せ、この理論の根據の要

論を堅固した功勞を

獣のイブナ

[illegible]

相對性原理の話

石原純

めば、いつの間にか東の方か

DSDの決裂事情

青樹社が思想の相容れざるを理由

のです。これを踏まえてにアン
・スラインは力大さの絶対性を
捨てたのです。方はやはり
野蠻の立場を異にするに従つて大
きさき變へるものとした。そ
して運命の際にあはれる處心力
の如きものも彼は一躍の應有の
力として解したのです。

中途に此二派は激闘の末後者が

解のものに包含されてしまふことになるのです。そして、甚だの驚有非のあらはれるのは、私たちの舞臺に、立場によりて物體の周圍の空氣に或る音ひが起すやうになつたのであることでした。の理

逆動せしむるにのみ急にして藥を

で。かの有名な日蝕観測で証明された光の屈折曲線の現象なども、アイヌタンがこの理論の結果として豫言したものであります。

アイヌタンの理論から一つの大きな驚くべき道標として手

れたまでと之が爲に $D \cdot S \cdot D$ が

は、いまだせん。或る適當な契機のない、斯ういふことを遂行してゐない、斯ういふことを遂行してゐる等とは堅い歩み方をしてゐるものと堅い歩み方をしてゐるものとを對してゐる。快な希望を置いて居る次第である。一に相續して居る。

運動状態にある観測者に対してま

つの直線の長ささへもう無限大では自然法則が同様になるやうにする
ありません。丁度地球表面上に於こ
こで出来なくてはなりません。

[illegible]